

平成21年12月7日（月）

○議長（中西峰雄君）日程に従い、順番6、17番 山田君。

〔17番（山田哲弥君）登壇〕

○17番（山田哲弥君）通告に従いまして一般質問を行います。

まず1番目は、国民宿舎紀伊見荘の存続についてであります。

国民宿舎紀伊見荘は、昭和44年8月にオープンしてから40年あまりになりますが、この間、いろいろな課題を克服しながら経営をされてきております。このことにつきまして、市民の一人として大変うれしく思います。

しかしながら、平成21年3月定例会議案審議の中で経済部長は、国民宿舎紀伊見荘を市といたしましては2年後の平成23年3月31日の指定管理契約期間の満了に向けて、廃止すべきと決定をいたしました、との答弁がありました。私は、赤字経営だからといって、宿泊施設の現状を把握せず廃止はいかなものかと思うわけでございます。市内の宿泊施設といえば旅館等の数軒がありますが、宿泊人数は限られており、また、ルートインホテル建設も経済金融不況によりまして当分の間、建設休止という中において、また、市内住民の雇用促進におきましても、国民宿舎紀伊見荘は存続させていくことが本来の姿であると考えますが、市長のお考えをお聞きしたいと思います。

次に2番目の、市道橋の調査、点検についてであります。

去る11月4日付朝日新聞の1面の見出しに、「橋「劣化」通行制限800基、寿命前に亀裂・腐食」と掲載されておりました。コンクリートの劣化や鋼材の腐食が想定外に進み、崩落寸前の状況に陥った道路橋が国土交通省の調査

でわかった。これは国の道路橋のことではございますが、そこで、橋本市の市道橋についてお聞きいたします。

①橋本市が管理する市道橋は何基あるのですか。

②市道橋の亀裂・腐食等の調査をされておりますか。また、するつもりはありますか。

以上で1回目の質問を終わります。

○議長（中西峰雄君）17番 山田君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）17番の山田議員のおただしについてでございますが、国民宿舎紀伊見荘の存続についてお答えをいたします。

紀伊見荘は、市民の福祉の向上と健康増進を図るとともに、観光客の利便及びその保健休養に資することを目的として、昭和44年8月、金剛生駒紀泉国定公園内の矢倉脇に開設をいたしました。

この施設の運営につきましては、開設当時から矢倉脇の根古川漁業協同組合に委託を行い、また、平成18年度から平成22年度までの5カ年間は、一般社団法人である根古川地域振興協会と指定管理の締結をいたしたところでありました。

開設当初から約10年前までの施設利用は、温泉宿泊施設に隣接したマス釣り場、テニスコート、プールのほか、岩湧山などへのハイキング基地として、また結婚式や同窓会など、地域の観光宿泊施設として大いににぎわいのあったところでありました。

しかしながら、約10年前からの団体旅行から家族旅行への移行や、結婚式の多様化による利用者の激減、スーパー銭湯等の温泉施設

の増加、経済金融不況による宴会等の減少等により、年々減収となってまいりました。

さらに、平成18年度からは毎年赤字決算となり、これを改善するため、経営改善計画についての指導や先進地施設視察の上での経営研修を実施しました。加えて、指定管理者においても、調理部門の強化のため新たな料理人を招き入れ、新しいメニューの開発や改善を行っています。現在のところ厳しい経営状況にあるのは変わりがなく、また、平成20年度、21年度において、使用料減額に伴う一般会計からの繰り入れも行ったところであります。

さて、議員おただしの国民宿舎紀伊見荘の存続については、市内の宿泊施設の状況から見て、各種大会やイベントの開催には必要性は十分認識いたしておりますが、利用者の減少が大きな課題となっており、将来の公的公共施設としての運営については、平成22年度末、指定期間の満了をもって、国民宿舎紀伊見荘としての廃止を前提として、指定管理者と現在協議を進めておるところでございますが、形の上で何らかこれを存続も考えなければいけないと私は思っておるわけでございますが、議会の皆さんとも今後十分協議をしながら、最善を尽くしてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどをよろしく願いをいたします。

残余の件につきましては、担当参与よりお答えをいたさせます。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

〔建設部長（樽井豪男君）登壇〕

○建設部長（樽井豪男君）現在、市道として管理しております橋梁は、平成20年度現在440橋で、そのうち道路橋は416橋、歩道橋が24橋となっております。

地方公共団体が管理する橋梁について、従来の事後的な修繕やかけ替えから、予防的な

修繕及び計画的なかけ替えへと円滑な転換を支援するため、長寿命化修繕計画策定事業費補助制度が平成19年度に創設されました。

また、道路局所管補助事業採択基準等におきましても、地方道の橋梁老朽等の対策事業に係る補助については、平成26年度以降は地方公共団体が策定する橋梁の長寿命化のための計画に基づくものに限っております。

本市におきましても、20年後には橋梁の標準的な耐用年数の50年を経過する橋梁が約66%を占め、急速に高齢化橋梁が増大します。

安全確保、また、今後見込まれる修繕、かけ替えに要する費用の平準化・コストの削減を図るため、平成21年度の地域活力基盤創造交付金事業の第3回配分枠で新規要望してまいりたいと考えております。

順次点検を実施し、財政状況も踏まえながら計画的に維持管理してまいりますので、よろしく願いいたします。

○議長（中西峰雄君）17番 山田君、再質問ありますか。

17番 山田君。

○17番（山田哲弥君）市長のほうからもご答弁いただきました。ですけれども、まず1番のほうからお伺いしたいと思います。

先ほど、私が冒頭に申し上げたとおり、市内の宿泊施設は数軒ありますが、宿泊人数が100名を超える施設は紀伊見荘しかございません。もし、また他方から行楽客が橋本市へ来られても、宿泊できる場所がなかったら橋本市への行楽客、またスポーツ大会及びイベントなどの参加者が、今まで以上に減少するのではないかと思うわけでございます。

このような状況になったのは、市ばかりが責任があると私は申しません。今現在、有限会社中間法人根古川地域振興協会、ここに指定管理したとして委託しておる、契約しておるわけでございますけれども、これにつきまし

ても、この協会自体が今まで市に依存し過ぎたと。右肩上がりのときは良かったと思うんですけども、そのような状況というか、そういう苦しい経営にもなっておるにもかかわらず、何か市にまたお願いすれば、どうにかなるだろうという甘い考えで、まあ言うのは失礼だと思うんですけども、そういうあまりにも市に依存してきた結果が、現在招いているこのような状況になってきたのではないかと、このように私、個人的には考えるわけでございます。

市長もご答弁の中に、平成23年3月末までに廃止を考えていくというか、そのような方向で考えておるといようなご答弁であったと思うんですけども、23年3月末までにはまだ少し時間がございますので、もう一度、この協会と市とがいろんな角度から協議を重ねて、でき得る限りこの国民宿舎が存続をしてもらいたいと私は思うわけでございますけれども、再度、市長のほうから、23年3月末までにはもう一度考え直すといようなご答弁をお願い申し上げたいと、このように思います。

○議長（中西峰雄君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）山田議員の再質問にお答え申し上げたいと思いますが、本当に市民のよりどころとして、新年会・忘年会・クラス会から幅広く、また大阪からも緑の濃い山里へ来ていただくということの、これは申すまでもなく非常にありがたいことでございますが、だから、私は管理者制度を、これをひとまず廃止させていただいて、紀伊見荘という、国民宿舎というこの看板をおろすべきだという考え方には変わりないんです。しかし、あとはなくすという意味で言ってません。あとはまた交渉次第で、ほかの地元の方でやってみるよとか、あるいは大阪の有志の方でや

ってみるよとか、とにかく今も必死にやっていたいておるのは認めておりますけれども、そういう解釈を私なりにいたしておるわけでございますので、やはり橋本市として、山田議員言われる、そういうよりどころないやないかと、それは当たり前のことなんです。それを壊してしまうということは私、申し上げておりませんので、若干時間があるので、前向きに幅広い考え方を皆さんとも相談してまいりたい。そういう考え方でおりますので、よろしく願いしたいと思います。

○議長（中西峰雄君）17番 山田君。

○17番（山田哲弥君）市長のお考えはわかりましたので、どうかよろしく願い申し上げます。

続きまして、橋のことについてでございます。市道橋、これはどういうような、橋でいいんですか。私、橋、橋と言わせてもらっておるんですけども、道路橋とか市道橋と言うんですね。どうぞ。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）そうでございます。市道橋、橋梁という形で一応呼んでおります。

○議長（中西峰雄君）17番 山田君。

○17番（山田哲弥君）そういったことで、440橋あると。そして、歩道については24橋あると。こういうご答弁いただきました。これについては、補助事業もあるということでございます。

ちょっと私も勉強不足で、ちょっとお聞きしたいんですけども、橋の調査点検基準というか、こういった国のマニュアル的な調査方法があるんですか。それをちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）ただ今のご質問にお答えいたします。

まず、市道橋、橋梁が440あるわけなんです

けども、そのうちの幅員が2.5m、橋長、長さが2m以下が100橋ございます。それと歩道橋が24橋なんですけども、これの分につきましては補助対象外ということになっております。それと15m未満の橋梁件数が234、15m以上が82橋ということで、まず今年度、21年度では橋梁の簡易点検といたしまして、現場を見て目視という形になるんですけども、それにつきましては、15m未満の橋梁を対象として行いたいと思っております。

来年度、平成22年度につきましては、15m以上の橋梁ということで82橋を、道路橋の基礎データの収集要領というのが国でありまして、それに基づいた中でデータを集積するというように考えております。

また、これは24年度まで行うんですけども、23年度では、そういったものから抽出した橋梁につきましてはの再度詳細の調査ということで、24年度までで終わらせたいと考えております。

○議長（中西峰雄君）17番 山田君。

○17番（山田哲弥君）ありがとうございます。そういったことで、補助があるというものの、これは橋本市に限った問題じゃないと思うんですけども、地方自治体すべてに言えることだろうと思うんですけども、問題は予算の面と、そして技術者不足というか、今現在、例えば部長がおっしゃったようなことをやっていこうというならば、それは民間委託というか、それとも建設課の技術職員が調査点検をしていくわけですか。それをちょっと伺わせていただきます。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）これは全国的なものでございまして、特に和歌山県でも、こういった橋梁の長寿命化の修繕計画の策定につきましては、すべてコンサル、そういった専門家にお任せしてやっております。特に橋梁

であると、新しいものでは細かな図面もあるんですけども、やはり古い物件も多々あると思いますので、そういったものもある程度図面等を作成する必要もございまして、特にどこが一番ポイントかというのが、非常にそういった、たけたコンサルタントとかにすべて見ていただいて、安全・安心の上からもやはり橋梁のことですので、そういったコンサル業務にかけたいと思っております。

○議長（中西峰雄君）17番 山田君。

○17番（山田哲弥君）そういった部長の意気込みを強く感じましたので、どうか市民、安心・安全のまちづくりのためにも、一日も早く調査点検をお願い申し上げたいと思う次第でございます。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（中西峰雄君）これをもって、17番 山田君の一般質問は終わりました。

この際、午後3時45分まで休憩いたします。

（午後3時30分 休憩）